

P-004

- ²岡嶋正行，¹館下佳奈，¹佐藤多恵子，
¹西村貴子，¹木下美佳，¹早勢伸正，
^{1,2}北村 大，^{1,2}北村誠史
(¹ポテト調剤薬局，²キタ調剤薬局)

**保険薬局で調剤された高血圧治療薬の
処方動向に関する調査**

目的

**「高血圧治療ガイドライン2019」
(JSH2019) への改訂に伴い、高血圧治療薬の処方動向が変化している可能性が考えられる。しかし、本邦における高血圧治療薬の処方動向は2015年3月までしか調べられていない。本研究の目的は、保険薬局の外来患者に調剤された高血圧治療薬の処方状況をレトロスペクティブ（後ろ向き）に調査し、「高血圧治療ガイドライン」の改訂時である2019年の使用薬品や処方割合を2014年の報告と比較することである。**

高血圧治療薬

- **カルシウム(Ca)拮抗薬**
ジヒドロピリジン系、ジルチアゼム
- **レニン・アンジオテンシン(RA)系阻害薬**
ACE阻害薬、ARB薬
- **利尿薬**
サイアザイド系、K保持性利尿薬、ループ利尿薬
- **$\beta(\alpha\beta)$ 遮断薬**
- **α 遮断薬**
- **直接的レニン阻害薬**
- **中枢性交感神経抑制薬 (メチルドパ、クロニジンなど)**

調査方法

- **調査対象期間：2019年4月1日～7月31日の4ヶ月間**
- **高血圧治療薬を処方された患者の処方せんから高血圧治療薬の薬品名、患者の年齢・性別情報を抽出し、高血圧治療薬の薬品別および薬効別にその処方率や処方割合について解析した。また、利尿薬については1日投与量（用量）を併せて調査した。**
- **北海道薬剤師会 臨床・疫学研究倫理審査委員会（承認番号：02-0007）**

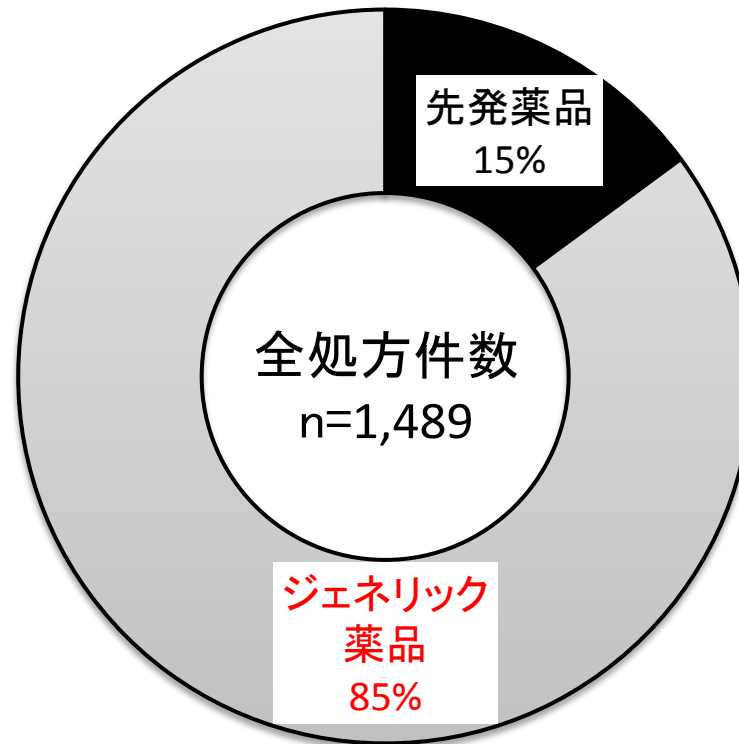
統計解析

本調査における処方率および処方割合の値、並びに2014年に調査された値（佐藤ら、医療薬学, 43, 9-17, 2017）の比較において、 t 検定あるいは χ^2 検定を用いて統計的に評価した。このとき、 $P < 0.05$ を有意差ありと判定した。

処方(患者)特性

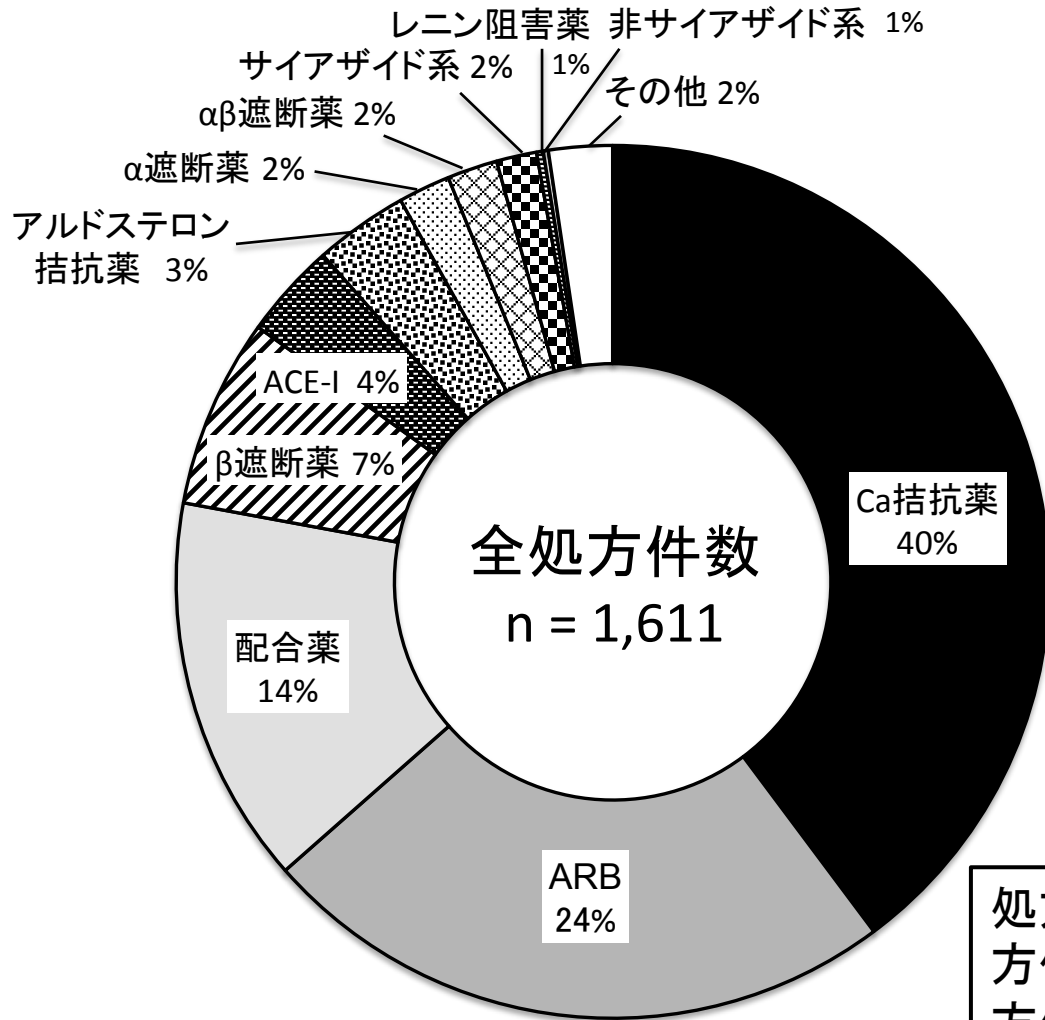
- 1. 対象薬品数：118品目**
- 2. 高血圧治療薬が処方された処方せん枚数
(解析対象処方せん)：1,050枚**
- 3. 高血圧治療薬が処方された件数：1,611件**
- 4. 性別処方割合：男性 46% (479枚),
女性 54% (571枚)**
- 5. 年齢別処方割合：75歳以上 47% (486枚),
65-74歳 33% (344枚),
65歳未満 20% (220枚)**

Fig. 1 ジェネリック薬品の使用割合



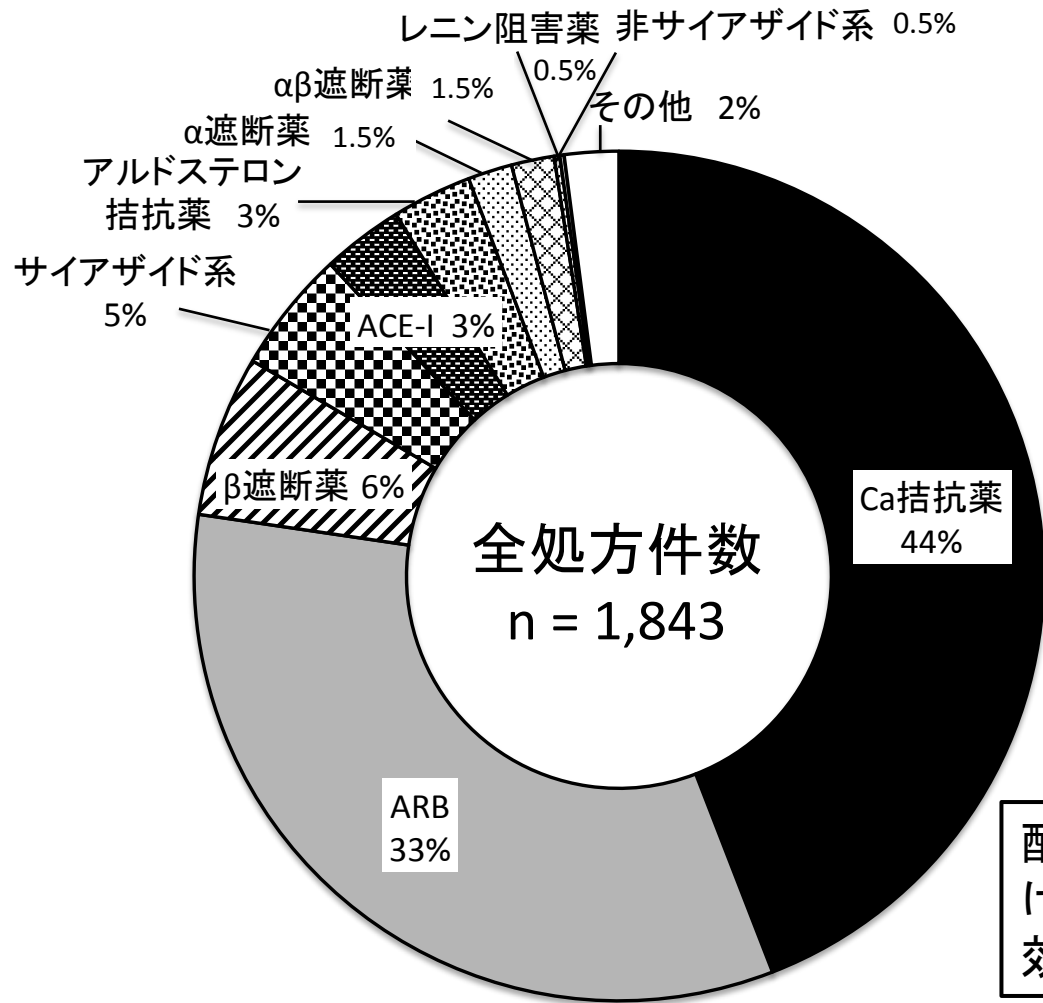
使用割合 (%) = ジェネリック薬品の処方件数 / (ジェネリック薬品の
ある先発薬品の処方件数 + ジェネリック薬品の処
方件数 (全処方件数))

Fig. 2 薬効別に分類した降圧薬の処方割合



処方割合(%) = 各降圧薬の薬効別処方件数 / 全降圧薬の処方件数(全処方件数)

Fig. 3 配合薬の成分を含めた薬効別降圧薬の処方割合



配合薬の成分を薬効分類ごとに分けて処方件数に加え、降圧薬の薬効別処方割合を新たに算出した

Fig. 4 薬効別降圧薬の処方率 -2014年調査との比較-

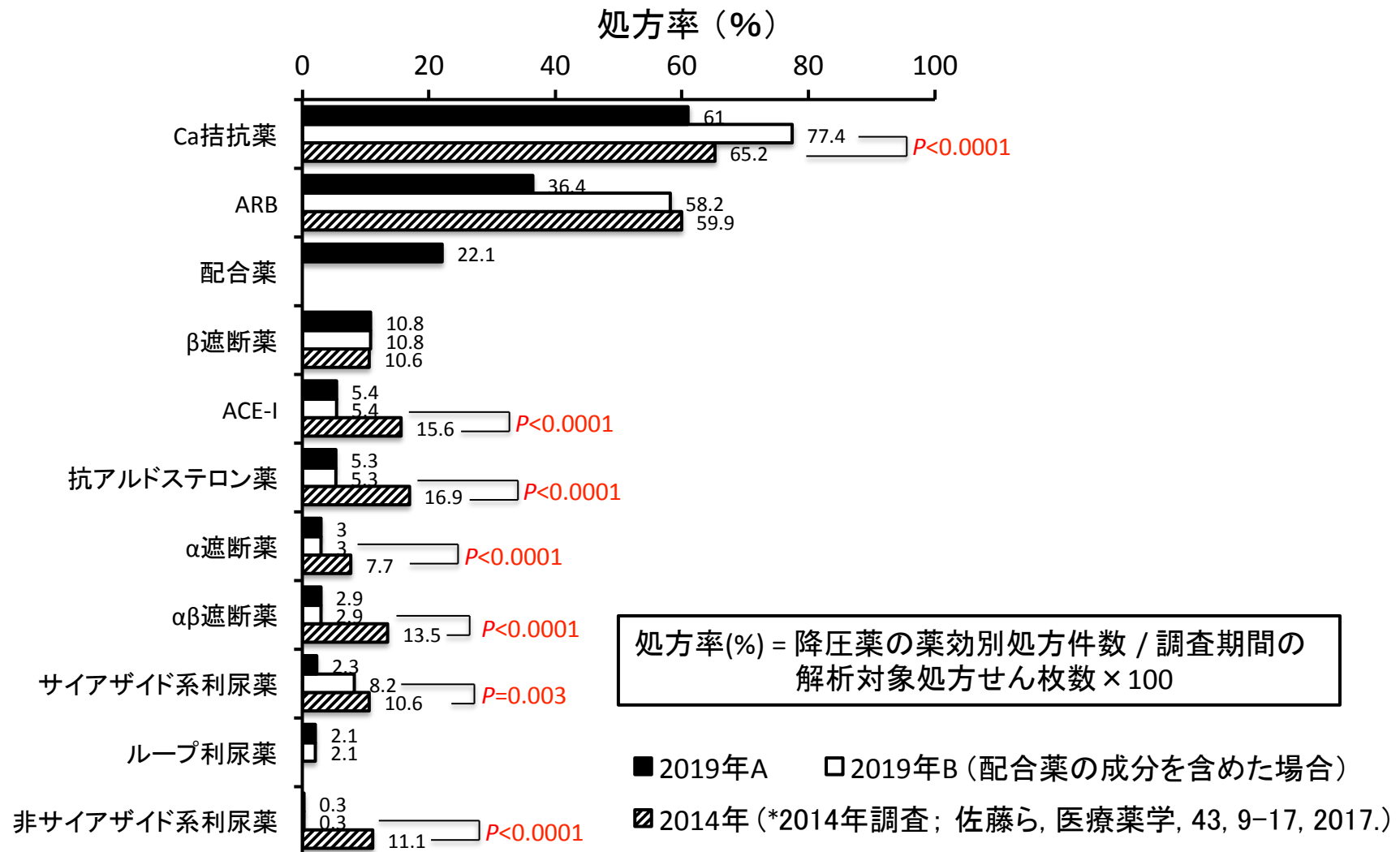


Fig. 5 薬効別に分類した降圧薬の性別処方率

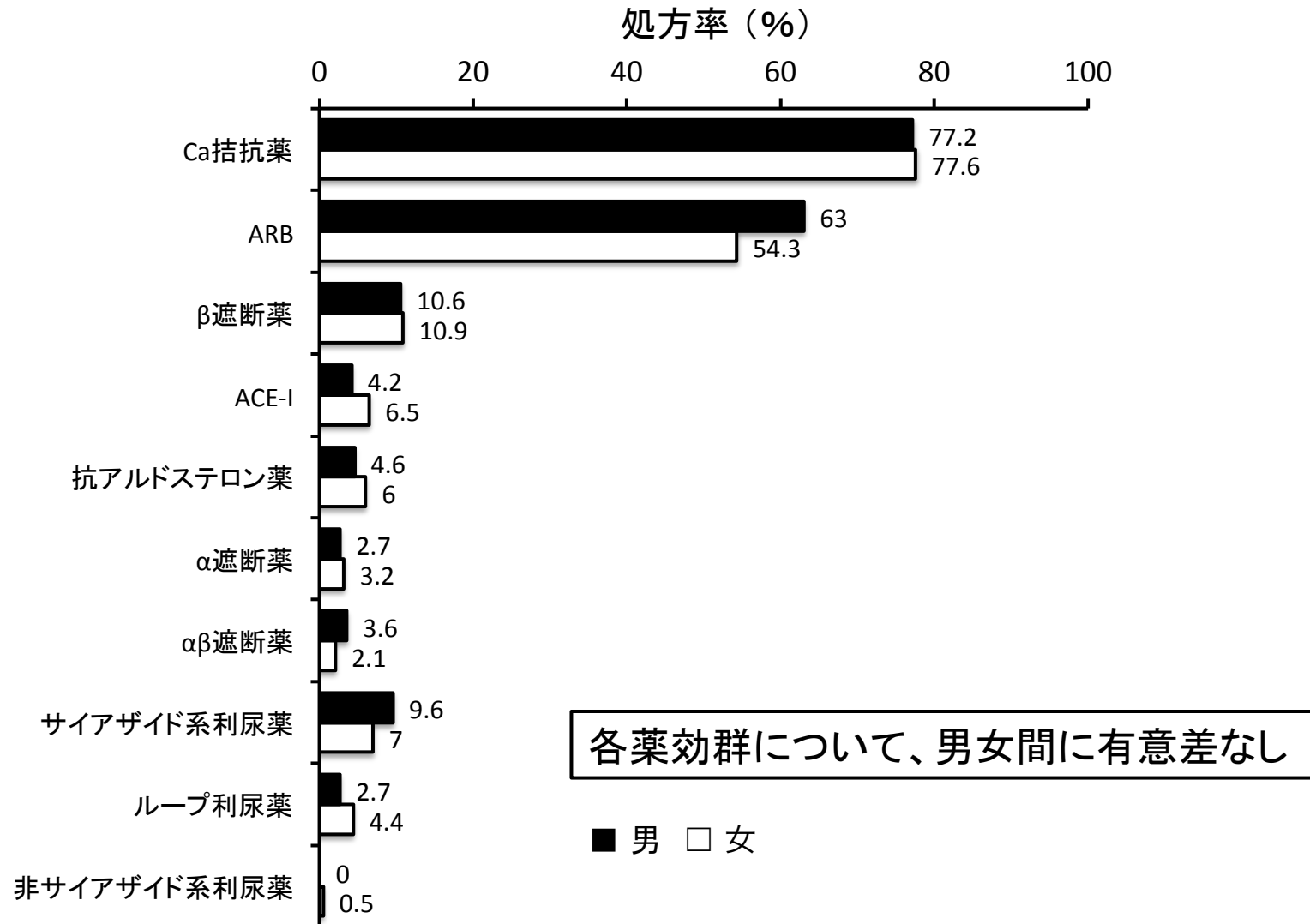


Fig. 6 薬効別に分類した降圧薬の年齢層別処方率

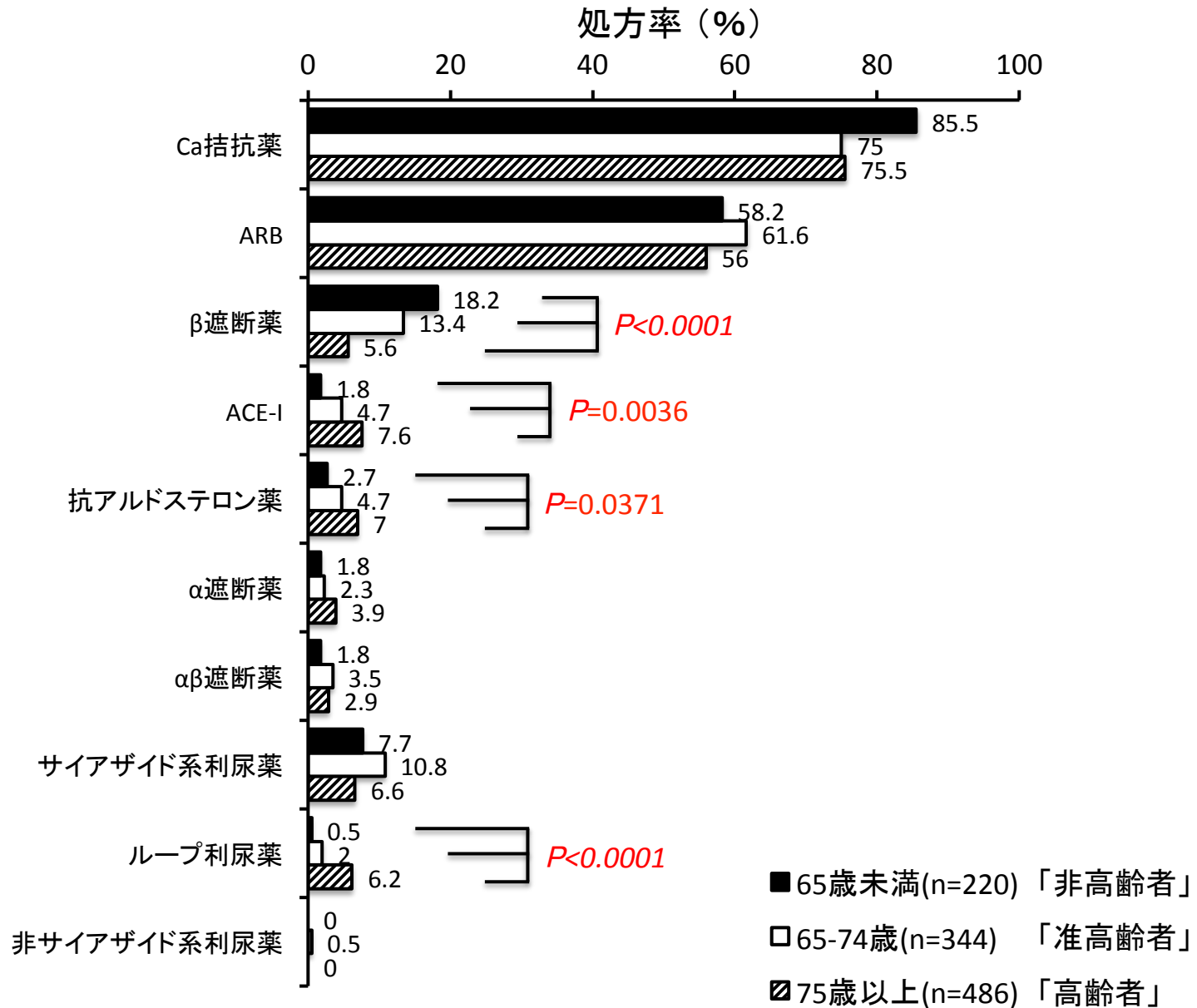


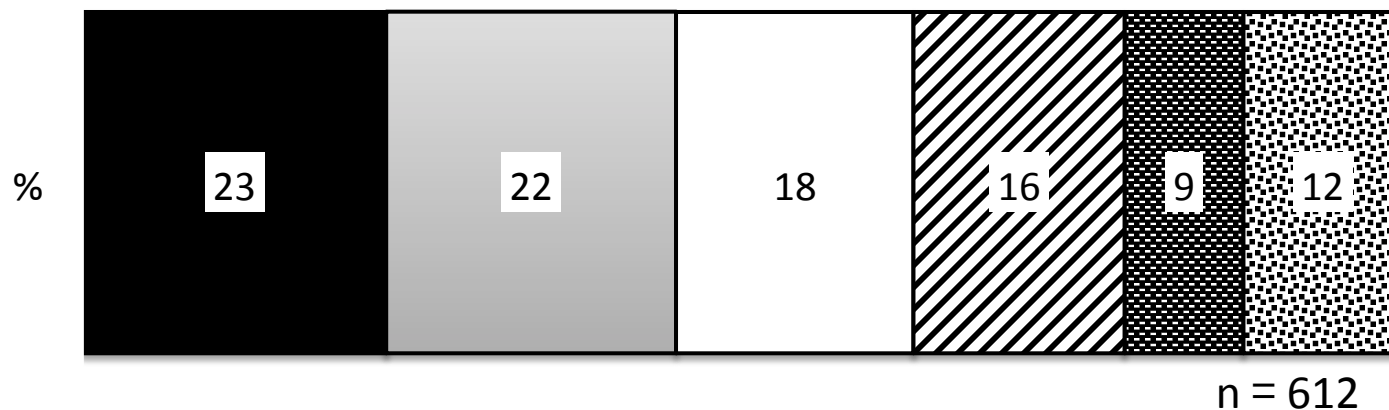
Fig. 7 Ca拮抗薬の薬品別処方割合



- アムロジピンベシル酸塩
- ニフェジピン
- シルニジピン
- ▨ アゼルニジピン
- ▩ ニトレンジピン
- ▧ ジルチアゼム塩酸塩
- ▨ その他

薬効群別の全処方件数に対する一般名別薬品の処方件数割合 (%) を算出した

Fig. 8 ARBの薬品別処方割合



■テルミサルタン

□イルベサルタン

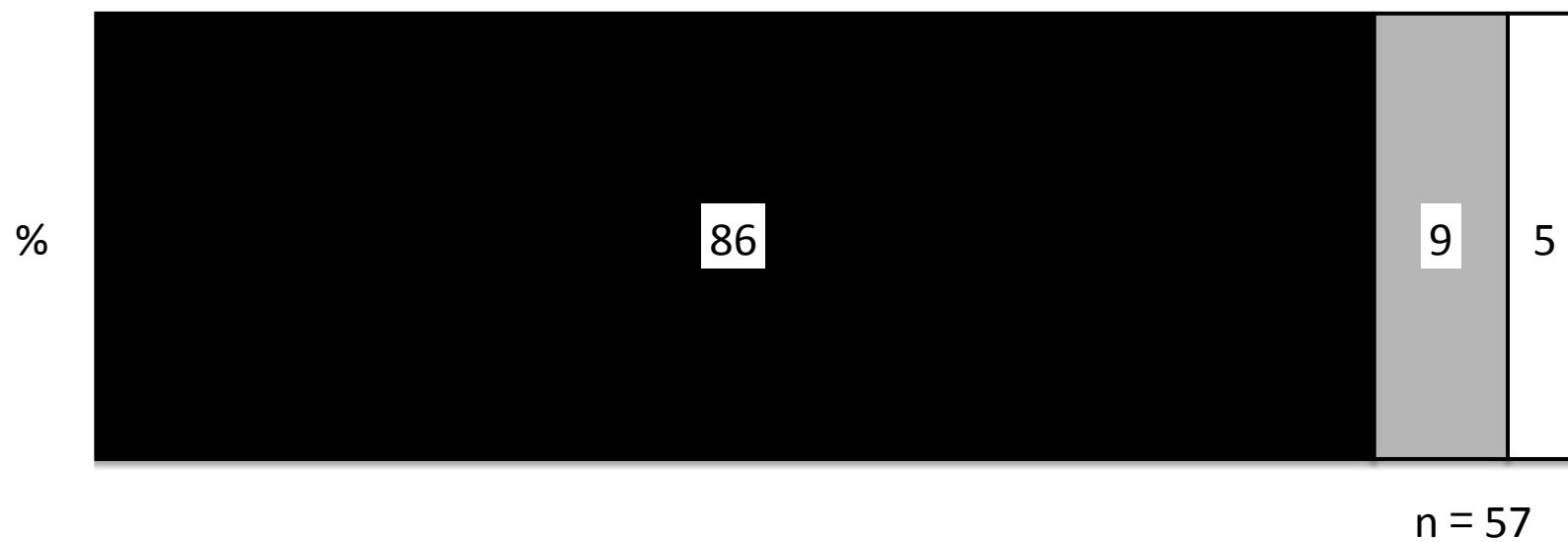
■アジルサルタン

□バルサルタン

▨オルメサルタンメドキシミル

▨その他

Fig. 9 ACE阻害薬の薬品別処方割合



■ イミダプリル塩酸塩 □ エナラプリルマレイン酸塩 □ カプトプリル

Fig.10 β 遮断薬の薬品別処方割合



- ビソプロロールフマル酸塩錠
- プロプラノロール塩酸塩
- ▨ メトプロロール酒石酸塩
- アテノロール
- ▨ ベタキシソロール塩酸塩
- ▨ カルテオロール塩酸塩

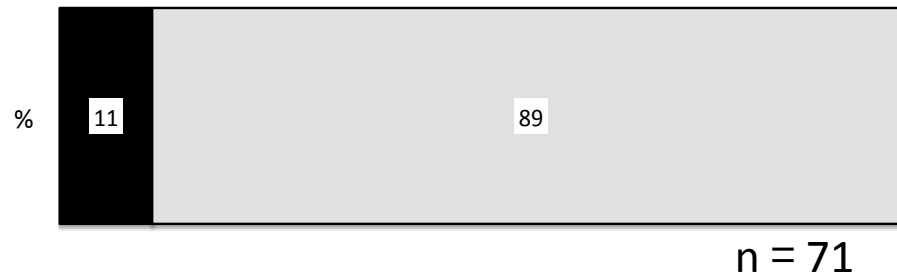
Fig.1 1 利尿薬の薬品別処方割合



- ヒドロクロロチアジド
- フロセミド
- スピロノラクトン
- ▨ エプレレノン
- ▩ トリクロルメチアジド
- ▧ インダパミド

Fig.12 利尿薬の用量別処方割合

ヒドロクロロチアジド



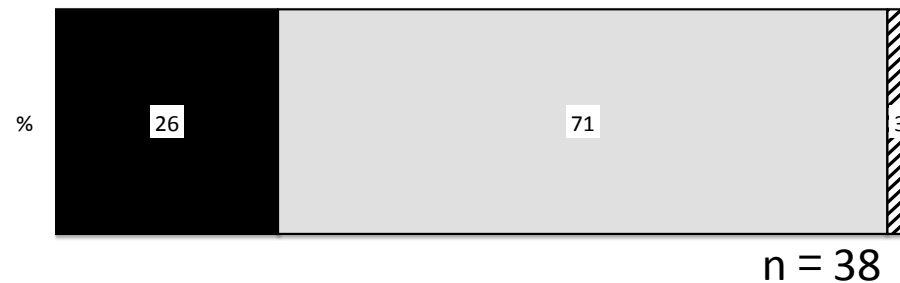
■ヒドロクロロチアジド錠6.25mg □ヒドロクロロチアジド錠12.5mg
通常用量: 1回25~100 mg

トリクロルメチアジド



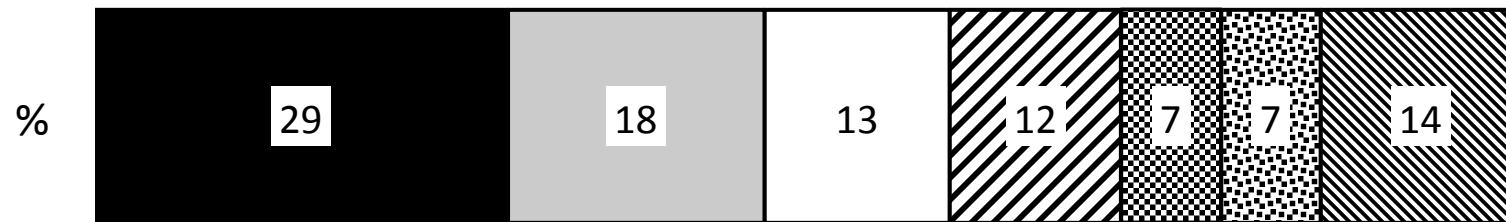
■トリクロルメチアジド錠1mg □トリクロルメチアジド錠2mg
通常用量: 1回2~8 mg

フロセミド



■フロセミド10mg □フロセミド20mg ▨フロセミド40mg
通常用量: 1回40~80 mg

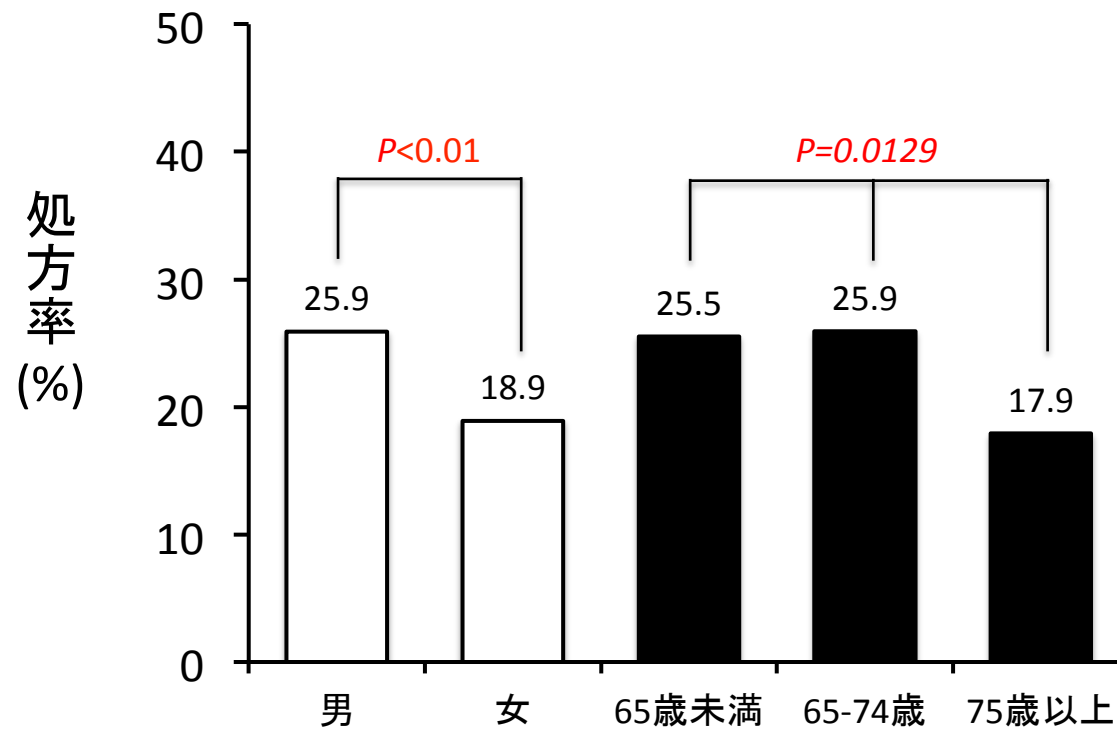
Fig.13 配合薬の薬品別処方割合



n = 232

- イルベサルタン+アムロジピン
- テルミサルタン+アムロジピン
- オルメサルタン+アゼルニジピン
- ▣ テルミサルタン+ヒドロクロロチアジド
- ▤ アジルサルタン+アムロジピン
- ▥ ロサルタン+ヒドロクロロチアジド
- ▧ その他

Fig.14 配合薬の性別・年齢層別処方率



結果&考察

1. 高血圧治療薬の処方率は、**2014年調査の結果と同じくARB薬、Ca拮抗薬の順**に高く、他の薬効群ではβ遮断薬を除き、2014年調査より低かった (Fig. 4)。
2. 性別・年齢層別に関係なくCa拮抗薬の処方率および処方割合が高かった (Fig.2~6) ことより、**Ca拮抗薬が処方時の第1選択薬**であると考えられる。
3. ジェネリック薬品の使用割合は85%と政府目標である2020年9月までに80%以上を超えており (Fig. 1)、**薬剤費を抑制する医療が定着**していると考えられる。
4. 配合薬の処方率および処方割合が高く (Fig.2)、**服薬アドヒアランスの向上**を目的に処方されていると考えられる。

結果&考察（続き）

5. 配合薬の処方率は75歳以上の高齢者で低下する（Fig.14）ことより、**高齢者には処方しにくい**面があると考えられる。
6. サイアザイド系およびループ系利尿薬の用量別処方では**常用量の1/4～半量**を用いる処方割合が高く（Fig.12）、JSHガイドラインの指針に良く適合していると考えられる。
7. β 遮断薬の処方率および処方割合が比較的高かった（Fig. 2~4）ことより、**心不全等の心血管疾患を合併する高血圧患者が多い**と考えられる。
8. 抗アルドステロン薬やループ利尿薬の処方率が高年齢者に高かった（Fig. 6）ことより、**高齢者では腎機能の低下した高血圧患者が多い**と考えられる。

第53回日本薬剤師会学術大会 利益相反の開示

筆頭演者名： 岡嶋 正行

**私は今回の演題に関連して、
開示すべき利益相反はありません。**